

日本語地名「旭川」と「濁川」

横 平 弘*

I. 旭 川

本年(1988年)3月、JR北海道の列車ダイヤ改正に伴って、従来から要望の強かった旭川駅の「あさひがわ」から「あさひかわ」への改称が実現した。まず、このニュースが掲載された北海道新聞の記事を紹介する。

①「英断」^①「JRになってやってくれましたね。英断でしょう」。旭川駅の読みがダイヤ改正と同時に「あさひがわ」から「あさひかわ」に変わることになって、新出実・市助役は「さすが民間企業」と喜ぶ。

JR側は「地元密着の企業を目指すため」と説明しているが、藤井諄一・市商工会議所副会頭も『「がわ』では石狩川の水まで濁っているようだった。これですっきりする』と大歓迎だ。

ただ、同市内の画家、高橋三加子さんは「今ごろになって統一する必要があるのかしら」と冷やかか。(1987. 12. 22. 朝刊)

②「……当地で育ち、在職38年ことごとく国鉄マンとして旭川に勤務した私にとっては「あさひがわ」駅という呼称は何の抵抗もなく自然に口をついて出てくる言葉であるが、すでに改称が決定したからには、言葉を改めて「あさひかわ」駅と呼ぶことにしなければ、と心掛けています。」(無職・福田正・旭川市・84歳、1987. 12. 26. 朝刊「読者の声」)

③「「が」から「か」へ、すっきり変身したい JR 旭川駅が3月、「あさひがわ」から「あさひかわ」に変わるのに伴い、旭川郵便局も「が」を「か」に切り替えるよう道郵政局に申し入れた。

陶山正二局長は「3年前、縦書きの局名便覧などは『か』に変えたが、なぜか外国郵便用のスベ

ルや横書きには『が』が残っていました」。

「冬季五輪招致運動を支援する立場として、早急な是正をお願いした。3月までに何とか間に合ってくれば」と期待している。(1988. 1. 10 朝刊、「ひと・交差点」。(文字上部の「・」は筆者、以下同様。記事中の「局名便覧」は未公開)

旭川市の玄関口である旭川駅は地元以外の利用者も多いことから、この英断は地元内外から大いに歓迎されたものと思われる。

旭川駅の呼称に誘引されて、市名や公共機関・施設名なども「がわ」で呼称されたのを度々耳にしていたが、以後はこれらも上記③の旭川郵便局を皮切りに、徐々に「かわ」に変化していくものと推測される。しかしこれらの呼称は上記②の投書記事にみるごとく、多分に習慣的なものであるから、「かわ」に完全に統一されるまでにはまだ長時日を要するであろう。

また、上記①のように統一に批判的な声も残されているので、旭川の公式名称の起源を記しておく。

北海道庁令 第61号 明治23年9月20日

石狩国上川郡及空知郡へ左の村名を設く

空知郡沼貝村 {区域 - (省略) -}

上川郡神居村 { " - (") -}

" 旭川村 { " - (") -}

" 永山村 { " - (") -}

(旭川市史、第4巻、p.455より)

これによって呼称は「アサヒカワ」とされ、以後これが踏襲されたものと考えられるが、その是非論を展開すれば果てしないであろう。しかし、それは地元の有識者に委ねることとし、ここでは触れないでおく。

ただ筆者は、上記の要望を昭和20年頃から度重

* 道都短期大学

ねて耳にしており、この40年余りの長期間、実現されなかったことに對し、旧国鉄の官僚的運営を改めて思い知らされた。

II. 濁川

濁川は旭川とは関係ないが、前記の記事を一部再記する。

「…『がわ』では石狩川の水まで濁っているようだった。これですっきりする」。

これを読んで地名の「濁川」を思い出し、すっきりしないところがあったので、若干の文献をひもといてみた。

1. 滝上町濁川

まず現地の状況からのべてみよう。

昨夏、旭川駅前から長距離高速バス(道北バス)に乗り、滝上経由で紋別市に赴いた。

滝上を過ぎて程なくバスガイド嬢のアナウンスがあった。

“間もなく「にがりがわ(濁川)」でございます…。”

この濁川にはかつて筆者の縁戚の者が居住していた関係で、この地名は何度も聞いていたが、それはいつも「にがりがわ」であったから、このアナウンスを耳にして聞き捨てるわけにはいかず、早速ガイド嬢に訊ねてみた。

“今、「にがり・がわ」と言われましたが、(上の「にがり」と同様に)下の「かわ」にもごるのですか?”〔()内は無発声〕。

“よくはわかりませんが、大雨の後などにはにごるのではないのでしょうか。”

意外な返答に、自分の聞き方が悪かったと反省し、それ以上の追及は諦めた。

濁川を通過して間もなく橋にさしかかり、左に渚滑川、右にその支流のオシラネブ川が見えた。晴天続きのせい、両河川とも清流であった。改めて、先程のガイド嬢の返答が正解(?)の1つであることを痛感した。しかし筆者の疑問が解消したわけではなく、その後ペンディングとなっていたが、ようやく解決のチャンスが到来したのである。

(1) 語源

まず濁川の語源から資料の年代順に記してお

く。

① 北海道蝦夷語地名解(永田方正:1891),
O nupki-o-p, オシラ子ブ川右・オヌプキョブ,
川尻, 濁りタル處。

② アイヌ・英・和辞典(ジョン・パチラー:
1938),
Nupki, ヌプキ, (イ)泥グラケナル, 濁水ノ如ク濃厚ナル, (ロ)ヲギ。

③ アイヌ語地名解(更科源蔵:1966),
濁川(にがりがわ)。

紋別郡滝上町内の渚滑線駅名。

渚滑川の支流オシラネブ(川尻に岩のある川)を間違つて濁川と名付けたもので、濁川と訳した川はオシラネブの小さな枝川で、オヌプキョブというのを川尻の濁った處と訳したのであるが、川口だけが濁るということはおかしい。オヌプキ・オマ・プは川尻が萩(の茂み)に入る川ということ。現在も川口には萩があり、濁ってはいない。

ここでは③の解釈が最も妥当と考える。

(2) 呼称

公式呼称と考えられる地名(字名)のほか、旧駅名、郵便局名、学校名について調べた結果は表1のとおりである。

ここに表示された16の全呼称例(片仮名表示を含む)のうち、「にがりがわ」は2例のみである。

このうち更科(1982)は、それ以前に「にがりがわ」と呼称し(更科:1966)、これを「にがりがわ」に改称した理由を明示してはいない。

もう1例の山田(1984)は、地名の起源については根拠を明かにしているが、呼称については明示していない。

以上の2例でや、懸念はあるが、他方の多数の表示例に基き、「にがりがわ」を呼称の公称及び通称とみてよいであろう。

改めて前記バスガイド嬢のアナウンスを回想すると、道北バス会社の「あさひがわ」式の発音で訓練された結果が「にがりがわ」となったものと考え及んだ。

表1 滝上町“濁川”の呼称

名称種類	呼称	発表年	編著者	摘要
地名	ニゴリカハ	1948	北海道自治協会	市町村から道庁への提出資料による。最新版には記載なし。自治省行政局監修。 更科源蔵の協力による。 「北海道駅名の起源」(1973)に基く。 現地の詳細な資料(現況・立地・沿革・行政等)による。
	にごりかわ〔通称〕	1951	国土地理協会編集局	
	にごりかわ	1966	更科源蔵	
	にごりかわ(しがい)	1975	NHK北海道本部	
	にごりかわ	1977	清光社	
	にごりがわ	1982	更科源蔵	
	にごりがわ	1984	山田秀三	
	にごりかわ	1986	栃木義正	
	にごりかわ	1987	角川文化振興財団	
旧駅名	にごりかわ	1942	札幌鉄道局運輸課	「北海道鉄道駅名考」その他に基く。 高倉新一郎・更科源蔵・知里真志保監修。 梅木通徳・小熊米雄監修。 2.5万分の1地形図駅名注記。 5万分の1 〃
	にごりかわ	1950	国有鉄道札幌地方営業事務所	
	にごりかわ	1973	日本国有鉄道北海道総局	
	にごりかわ	1975	国土地理院	
	にごりかわ	1977	同	
郵便局名	ニゴリカワ(郵便局)	1945	札幌郵政局	「局所原簿」(三)による。昭和20年2月11日施行。
学校名	にごりかわ(小学校)	1987	北海道教職員組合	

2. 森町濁川

滝上町の濁川を文献でひもといていくと、当然ながら同字地名の森町の濁川も一緒に調べてしまうことになった。

こちらの方はまだ現地を見ていないが、かねてより地熱発電事業などでこの地名はよく耳にしており、これも常に「にごりかわ」であった。

(1) 語源

滝上町の場合と同様に、濁川の語源から資料の年代順に記しておく。

① 北海道蝦夷語地名解(永田方正:1891), Yu un pet, ユ ウン ペツ, 温泉川, 今濁川ト云フ。

② アイヌ・英・和辞典(ジョン・バチラー:1938), Yu.un.pet.

③ 北海道の地名(山田秀三:1984)

濁川 にごりがわ

森町内の地名, 川名。

濁川は落部より少し南にある川。

原名はユー・ウン・ペツ(yu-un-pet 温泉・の・川)と呼ばれた。この川を溯ると小盆地があり, その方々に温泉がある。それが流れるのでユーウンペツであり, 濁川でもあった。

ここでは3者とも妥当と考えられる。

(2) 呼称

公式呼称と考えられる地名(字名)のほか, 地形図幅名, 盆地名, 温泉名, 郵便局名, 学校名などについて調べた結果は表2のとおりである。

ここに表示された16の全呼称例(片仮名表示を含む)のうち, 「にごりがわ」は3例ある。

このうち北海道自治振興センター(1984)と角川文化振興財団(1987)は, 現地の詳細な資料に基いていることから, これを公称及び通称とみてよいであろう。

しかし他の13例が「にごりかわ」を呼称し大勢を占めていることから, 当地名の呼称は「にごりかわ」及び「にごりがわ」の2通りあって統一されていないものとする。

3. 北檜山町濁川

当地名の起源については手近にある資料では記されていないが, 5万分1地形図「今金」で当地の近くを流れる同名の河川の名称によるものと思われる。

地名の呼称について調べた結果は表3のとおりである。

わずか4例中に1例の「にごりがわ」があるが, 現地では「にごりかわ」が通用しているとみられる。

表2 森町「濁川」の呼称

名称種類	呼 称	発表年	編 著 者	摘 要
地 名	にごりかわ	1951	国土地理協会編集局	自治省行政局監修。
	にごりかわ	1975	NHK北海道本部	更科源蔵の協力による。
	にごりかわ	1977	清光社	
	にごりがわ	1984	北海道自治振興センター	市町村から道庁への提出資料による。
	にごりがわ	1984	山田秀三	
	にごりかわ	1986	栃木義正	山田秀三(1984)による。
	にごりかわ	1987	三省堂編集所	谷岡武雄・山口恵一郎監修。
	にごりかわ	1987	角川文化振興財団	現地の詳細な資料(現況・立地・沿革・行政等)による。
地形図幅名	にごりかわ	1973	国土地理院	5万分の1地形図幅「濁川」。
盆 地 名	にごりかわ(盆地)	1987	三省堂編集所	(上欄に同じ)
	にごりがわ(盆地)	1987	角川文化振興財団	(")
温 泉 名	にごりかわ(温泉)	1975	NHK北海道本部	(")
	にごりかわ(温泉)	1979	日本地誌研究所	青野寿郎・尾留川正平責任編集。
	にごりかわ(温泉)	1987	三省堂編集所	(上欄に同じ)
郵便局名	(オシマ)ニゴリカワ(郵便局)	1939	札幌郵政局	「局所原簿」(番外)による。昭和14年6月1日施行。
学 校 名	にごりかわ(小学校)	1987	北海道教職員組合	

表3 北檜山町「濁川」の呼称

名称種類	呼 称	発行年	編 著 者	摘 要
地 名	にごりかわ〔通称〕	1951	国土地理協会編集局	自治省行政局監修。
	にごりかわ〔通称〕	1975	NHK北海道本部	更科源蔵の協力による。
	にごりがわ	1977	清光社	
	にごりかわ	1986	栃木義正	出典なし。

4. ^{かみいそ}上磯町濁川村

当地名の起源等については角川日本地名大辞典(1987)に詳しいが、国土地理院の現行5万分1及び2.5万分1地形図には認められない旧地名である。同辞典による呼称は「にごりかわむら」である。

III. あとがき

「旭川」の改称を前段として、道内の「濁川」について、おもに国土地理院の地形図に記載されている地名の呼称を報告したが、同地形図に表示されていない小地名が残されていると思われる。そのほか河川(沢)名としても多数認められるが、これらは次の機会に検討したい。

本稿のとりまとめに当り、出典やその所在をご教示下された駒沢大学北海道教養部栃木義正講師、及び局内資料の閲覧等にご便宜をいただいた北海道郵政局大川皖士係長並びに中沢克巳事務官に深謝の意を表す。

参考文献

旭川市史編集委員会(1960):旭川市史・第4巻,旭川市役所,455ページ。
 NHK北海道本部(1975):北海道地名誌,北海教育評論社,117,118,154,495ページ。
 角川文化振興財団(1987):角川日本地名大辞典・1・北海道上・下巻,角川書店,513,701,1066,1067ページ。
 国土地理協会編集局(1951):国土行政区画絵巻-北海道・東北国土地理協会,61,70,99ノ3ページ。
 国有鉄道札幌地方営業本部(1950):駅名の起源,国有鉄道札幌地方営業事務所,105ページ。
 札幌鉄道局運輸課(1942):北海道駅名の起源,北疆文化研究会,93,120ページ。
 札幌郵政局(手記):局所原簿(三,番外),北海道郵政局(局内資料)。
 更科源蔵(1966):アイヌ語地名解-北海道地名の起源-,北書房,321ページ。
 更科源蔵(1982):アイヌ語地名解,みやま書房,297ページ。
 三省堂編集所(1987):コンサイス日本地名辞典(改訂版),三省堂,903ページ。

- ジョン・バチラー (1938) : アイヌ・英・和辞典, 岩波書店, 339 ページ。
- 清光社 (1977) : 全国地名読みがな辞典, 15, 19, 32 ページ。
- 栃木義正 (1986) : 北海道地名一覧, 123 ページ
- 永田方正 (1891) : 北海道蝦夷語地名解, 北海道庁, 182, 500 ページ。
- 日本国有鉄道北海道総局 (1973) : 北海道駅名の起源, 202 ページ。
- 日本地誌研究所 (1979) : 日本地誌, 第2巻・北海道, 二宮書店, 334 ページ。
- 北海道教職員組合 (1987) : 北海道教育関係職員録, 北海道教育評論社, 176, 333 ページ。
- 北海道自治協会 (1948) : 北海道市町村行政区劃, 123 ページ。
- 北海道自治振興センター (1984) : 北海道市町村行政区画便覧, 北海道行政協会, 138 ページ。
- 山田秀三 (1984) : 北海道の地名, 北海道新聞社, 182 ページ。